

平成30年度 学校評価〔教職員評価〕集計結果（北海道上士幌高等学校）

評価基準 4：十分である 3：概ね十分である 2：やや不十分である 1：不十分である

分野・領域	評 価 項 目	達成状況（人）				平均	改善の具体策
		4	3	2	1		
学習指導 2. 9 5	1 個に応じた学習指導を行い、基礎・基本の定着を図っている	3	12	2	1	2.94	・低学力の生徒及び学習意欲の欠如が顕著な生徒への対応には限界がある。 ・生徒の層が幅広く対応が難しい。家庭の協力を求める。
	2 生徒の特性や進路希望に応じた学習指導により、学力の向上を図っている	2	14	1	1	2.94	・家庭学習の習慣化という目標が生徒の実態から乖離している。 ・週末課題はなかなか定着しなかった。学習するメリットを生徒に感じさせるための工夫が必要。
	3 課題等で生徒の家庭学習の習慣化を図り、生徒が自主的に学ぶ力を育てようとしている	1	6	10	1	2.39	・家庭学習にこだわらず学習時間を増やすことを目標に学校で勉強させる。 ・家庭学習にこだわらず、空いた時間に少しでも学習をさせる、または新聞記事を読むなど物事を考える時間を一週間に少なくとも一度は設定する。
	4 学習指導要領に則った授業改善（観点別評価を含む）を進めている	4	12	1	0	3.18	・家庭学習を見越して内容を精選した課題を提示する。
	5 相互参観後の授業研究や授業評価アンケート等を活用して授業力の向上を図っている	6	11	1	0	3.28	・目標を具体化する仕掛けを実施する。
生徒指導 3. 0 6	1 日常的に行動観察や面談、カウンセリング等を通じて生徒理解に努めている	5	13	0	0	3.28	・帰属意識を高める。 ・面談週間を明確に設定する。 ・目標を具体化する仕掛けを実施する。
	2 日常的に挨拶指導や身だしなみ指導を継続して行っている	2	15	1	0	3.06	・部活動の加入率低下に伴い、代わりになる活動を模索する。
	3 生徒会活動や部活動を通して、生徒が主体的に行動できる力を育てようとしている	3	11	4	0	2.94	・半年は必ずどこかに所属させる。または、部活に加入した生徒に何らかの補助をする。など、何らかの手立てを講じて部活動の加入率を上げる。
	4 集団の一員として責任を果たし、互いに協力して助け合う姿勢を育てようとしている	2	12	4	0	2.89	・そもそも部活等で頑張れない生徒が増え、顧問も指導につけないことから部活縮小化が決まったのだから、ゆる部活など通常の部活とは異なるスタイルを考える必要がある。
	5 巡回、面談、アンケート調査等を行い、いじめの未然防止や早期発見に努めている。	3	14	1	0	3.11	・情報や指導方針を共有し、全体で関わる態勢を整える。
進路指導 3. 1 3	1 面談等で自己理解を深めさせ、能力や適性に応じた進路目標を設定できるよう指導している	3	13	1	0	3.12	・1～2年次にLHRなどで面談の時間を確保する。
	2 社会人講話、模擬面接、職業体験(インターシップ)等を通じ、キャリア教育を進めている	10	8	0	0	3.56	・資格取得について学年間の差を縮小する。 ・一人一資格など、積極的に受検させる。
	3 各種検定・資格取得を奨励し、キャリアアップを促進をしている	4	11	2	1	3.00	・分掌と学年の業務分担と連携を見直す。
	4 3年間の系統だった進路指導を分掌主導で展開している	2	11	5	0	2.83	・インターンシップなど、分掌主導で行う。
健康安全指導 3. 3 2	1 生と性に関わる講話やボランティア活動の奨励等、生徒の健全な心身の育成に努めている	9	9	0	0	3.50	・分掌主導で委員会活動を奨励する。
	2 避難訓練や薬物乱用防止講話、交通安全講習会等を通じ、防災・防犯・安全教育に努めている	10	8	0	0	3.56	・分掌主導で清掃活動や委員会活動の活性化を図る。
	3 日常の清掃活動や委員会活動を通じ、公共心や環境保全の意識を涵養している。	2	12	4	0	2.89	・各委員会の目標を明確化する。
学校運営 3. 2 1	1 本年度の重点目標、経営方針、教育計画と照らし合わせながら教育活動に取り組んでいる	2	13	2	1	2.89	・重点目標や経営方針を意識化する仕掛けが必要。 ・重点目標をより具体的にする。
	2 教職員間の報告・連絡・相談を密にした協働態勢により行動連携を図っている	3	13	1	1	3.00	・生徒に身につけさせる力を明確化する。
	3 教育活動の点検・評価を適切に行い、問題解決の道筋を共有して工夫・改善を図っている	2	15	1	0	3.06	・特定の職員の時間外勤務がかさまないように業務分担を適切に行う。
	4 優先業務の意識化、退勤時刻の意識化、業務外業務の削減等、時間外勤務の縮減に努めている	2	10	5	1	2.72	・業務量の差が顕著なので、適切な人員配置により適正化を図る。 ・仕事の偏りは仕方ないと思うが、他の分掌業務まで担うのは望ましくない ので、分掌の中で補う。
	5 教育公務員として、服務規律の保持に努めている	12	6	0	0	3.67	・各分掌ごとに業務内容の点検、スリム化案を出し合う。
	6 町の関係機関等と連携した教育活動や公開授業により、開かれた学校づくりに力を入れている	13	5	0	0	3.72	・管理職のリーダーシップの元で業務削減に努めてほしい。 ・必要に応じて事務職員と教職員の役割分担を見直す。
	7 各通信の発行やホームページの更新等により、保護者や地域へ適度に情報を発信している	9	8	0	1	3.39	・全職員が勤務時間を意識して勤務する。 ・HPの文字を拡大するなど見やすくする。